

# デザイン総合実習Ⅲ(製品デザインコース)

必修

開講年次：3年次後期

科目区分：実習

単 位：2単位

講義時間：60時間

■**科目のねらい**：デザイン総合実習I、IIを始め、専門教育科目の履修を踏まえ、問題発現と解決策提案能力、新しい技術や情報を取り込む能力、さらに検証能力を身に付ける課題を与え、具体的な作品制作を通して、実践的なデザイン能力を身に付ける指導を行う。また、4年次の卒業研究における卒業論文の執筆をする上での研究論文執筆能力を養う。

■**到達目標**：①【デザインプロセス】製品とユーザーとの対話を設計するデザインプロセスの修得  
②【発想力の向上】研究成果等の裏付け、学外調査に基づいた発想力の向上  
③【検証力の向上】ソフトウェアプロトタイプによる評価実験を通じた検証力の向上  
④【論文執筆能力の向上】卒業研究を執筆する上での論文の書き方の修得

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎張 浦華・安齋 利典・柿山 浩一郎・金 秀敬・小宮 加容子・三谷 篤史・若林 尚樹・矢久保 空遥

■**授業計画・内容**：

- 第1回 オリエンテーション（課題テーマ、評価のポイント）
- 第2回 ターゲットユーザー（対象とするのはどんな人）
- 第3回 想定する近未来（未来における日常生活の定義）
- 第4回 コンセプト（製品を扱うとユーザーはどうなるのか）
- 第5回 ユーザーと製品の対話1（テキストによるインタラクション表現）
- 第6回 実社会におけるデザインプロセス体験（ワークショップ）
- 第7回 実社会における技術調査（フィールド調査）
- 第8回 ユーザーと製品の対話2（状態遷移図によるインタラクション表現）
- 第9回 実験計画（評価／検証すべき内容）
- 第10回 論文の書き方1（論文を分析する）
- 第11回 プロトタイプ作成
- 第12回 評価実験（被験者へのモデレーション）
- 第13回 分析結果の読み取り／考察／改善案の構築
- 第14回 プロダクトプレゼンテーションとは
- 第15回 最終プレゼンテーション

■**教科書**：適宜資料を、講義サイトにて公開／配付する。

■**参考文献**：適宜資料を配付する。

■**成績評価基準と方法**：取組み姿勢、提出物（60%）、およびプレゼンテーション（30%）により評価する。（出席は2/3以上の出席を必要とする（10%））

評価方法	到達目標				評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③	到達目標④		
定期試験						
小テスト・授業内レポート						
授業態度		○	○	○	毎回の課題報告の質 論文分析の提出内容	60
プレゼンテーション	◎				最終プレゼンテーションにおけるプロセスの達成度を評価する	30
出席	○	○	○	○	出席率にて評価する(2/3以上の出席を欠格条件とする)	10
その他						

■**関連科目**：デザイン総合実習I（2年次後期）およびII（3年次前期）、卒業研究（4年次通年）

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：本演習は、今後の就職活動に用いるポートフォリオの素材とすることを意識しつつ、また、4年次の卒業研究における論文執筆の際の、論文執筆能力の向上を目的とする科目である。重要度の高い実習と位置づけ、アウトプットのクオリティを上げること。毎回の経過報告を必ず行うこと。